

運営委員会の模様

日時 2018年12月15日 15:30~17:00
 場所 大阪国労会館 出席者 18名

①入退会者 新入会者3名を承認し、退会者2名、
 現会員数278名。

②会計 会費未納者について、運営委員が未納者の
 状況把握をした上で、会費納入を呼びかけていく。

③国際交流 翻訳詩集「言葉の花火」。各方面から
 の反響がある。英語からルーマニア語にトランス
 レイトされ、ルーマニアで紹介されたといううれ
 しい連絡有り。

④ホームページ 会員の詩が11月1日より更新され
 た。

⑤自薦詩集。今年度発行予定の自薦詩集。編集担当
 者は、吉田、松村、市原各委員に決定。

⑥創立25周年記念誌。今回の自薦詩集に、関西詩
 人協会の歩みが分かる記念誌的内容を組み込み、
 発行することに決定。予算、内容について今後、
 具体化していく。

⑦詩のイベント 25周年を意識した企画にしたい。
 内容は今後詰めていく。

⑧詩画展。釣部、永井、吉田、和比古各委員の提案
 を受け、会場を検討。6会場から条件を精査し、
 大阪府立中央図書館に決定。日程は、5月21日(火)
 搬入、6月2日搬出予定。

⑨詩話会。会員の朗読など、会員参加型企画を今年
 も行う。期日は、詩画展と重ね、6月2日を予定。
 ⑩フリーマーケット企画。25周年行事として検討
 中。兵庫県現代詩協会と共催予定。窓口は左子、
 和比古委員。関西の誌詩、詩人の交流などをねら
 いに内容を具体化していく。(文責・北村真)

関西詩人協会決算報告

2017年10月1日～2018年9月30日 会計担当 岩井 洋 (単位円)

1 一般会計

取 入			支 出		
科 目	金 額	摘 要	科 目	金 額	摘 要
前年度繰越金	263,857		会議費	209,348	会場費、委員交通費、委員活動費、事務費他
入会費	28,000	14名分	広報費	410,605	会報87～90号発行等
会費	940,500		名簿刊行費	82,630	名簿印刷、事務諸経費
雑収入	56,643	寄付 名簿広告5件 利子	事業費	137,310	イベント(2017,18)、詩画展補助
		6,640	講演会費	30,000	総会講師謝礼
		50,000	HP作成費	30,000	HP制作関係
		3	入会審査費	9,595	連絡、事務諸経費
			総会	17,537	総会費用補填
			会計事務費	30,216	事務諸経費他
			慶弔費	10,000	弔慰金
			積立金	30,000	特別会計へ
			文化団体加盟金	30,000	大文連会費他
				0	
			小計	1,027,241	
			繰越金	261,759	
合 計	1,289,000		合 計	1,289,000	

2 特別会計

項 目	取 入	支 出	摘 要
繰越金	236,541	0	
積立金	30,000	0	積立
預金利子	2	0	
計	266,543	0	次年度へ繰越
繰 越		266,543	

関係帳簿などにつき監査いたしましたところ、何れも正確且つ妥当である事を証明いたします。

2018年11月3日

会計監査

瀬野とし 

《会員の詩書》(紹介文・山田兼士)

以倉紘平エッセイ集『気まぐれなペン』(編集工房ノア)

以倉紘平詩集『遠い蛍』(編集工房ノア)

1940年生まれのベテラン詩人の新作31篇。35歳で死んだ愛娘への哀悼、詩人たちとの交友、少年期の追憶を主要モチーフにした、極めてストレートな抒情詩が哀しく懐かしく心地よい。子供の頃に飼っていた愛猫の記憶さえ「遠い蛍」として生命の光を放っている。

石村勇二エッセイ集『精神病とその周辺』(竹林館)

市原礼子詩文集『すべては一匹の猫からはじまった』(双陽社)

岸本嘉名男詩集『詩ごよみ』(濤標)

関中子詩集『沈水』(銅林社)

田村照視脚本とDVD『鎮魂と復興の歌』(竹林館)

根来眞知子第一詩集復刻『ささやかな形見』(JUNP A BOOKS)

橋爪さち子詩集『葉を煮る』(土曜美術社出版販売)

京都生まれ大阪府在住の著者による第6詩集21篇。懐かしい旧友や思い出や生活の細部など、一見ささやかなモチーフを、独自の幻視と諧謔によって端正な詩に昇華している。特に老母を主題にした作品群は、切実

さと磊落さの共存によって読者に迫ってくる。

畑中暁来雄漢詩詩集『燭下夜吟』(私家版)

松村信人『似たような話』(思潮社)

1949年生れの著者による第3詩集36篇。おもに実業の世界で会った人、少年時代青年時代からの友人、といった種々の人々との交流を中心に、短からぬ人生の機微をユーモアとペーソスに包んで表している。特に、謎の死、非業の死を遂げた友人たちへの思いは深い。

もりたひらく詩集『TICK TICK TICK』(竹林館)

1967年和歌山生まれの著者による第4詩集。小型の正方形本見開き2ページほどの作品を中心に36篇を集める。日常の出来事や人生を画す事件、家族のこと、さらに社会的事件と、主題は多岐にわたるが、どの作品にも作者の素直で繊細な感受性が宿っている。

山田兼士(訳・解説)シャルル・ボードレル『小散文詩 パリの憂愁』(思潮社)

アンソロジー現代生活語詩集(竹林館)

中尾彰秀 ピアノインプロヴィゼイションと詩朗読CD出版、「アリストクラートとTAO」「挨とカノンとニルヴァーナ」「どこでも由よ」「pp38」森羅通信の会

《入会・退会》

入会

安田由美子

553-0002

大阪市福島区鷺洲5丁目10-8

退会

清林保(1月逝去)、伊藤眞司、中村純、荻野優子

ホームページ報告

《会員の詩》三編(11月1日〜翌年1月31日)

関中子「がれきのようなことばを」、畑中暁来雄「阪急電車「小林駅」、風呂井まゆみ「きょうだい」

《会員の活動》

11月4日13時開場 第3回 黄金のあみコンサート

〜未来へ送る創作童謡と歌曲〜

大阪市青少年センターココプラザ2階

(文責 松村信人)

役職名変更について

名簿に記してある「議事録」の名称を2019年より「書記」と変更します。

2017年度の第一回運営委員会の時、右記の提案がなされ、可決されました。理由としてはその役割が単なる議事の記録に終わらず、すでに事務局に包括されて、実質活動しているので「書記」の方が相応しいと思われるため。

《会員発行の詩誌》

アリゼ186号

異郷46号

イリヤ20号

風の音17号

奇跡(詩と評論) 1~5

現代詩神戸263号

現代京都詩話会創立40周年記念誌

沙羅32号

軸創刊50周年記念誌

新燎原28号

朱雀24号

知井24号

100円詩集3号

ふしが45号

PO171号

ぼとり第51号

ラヴィーン204号

リヴィエール160~162号

びーぐる 詩の海へ 41号

表情(西宮文芸誌) 27号(巻頭 山田兼士氏)

Master 52号

森羅通信168~171号

銀河詩手帖291号

以倉紘平

村上久雄

尾崎まこと

野口幸雄

津坂治男

永井ますみ

有馬敵

以倉紘平

原圭治

小林尹夫

西田純

名古きよえ

熊井三郎

竹内正企

左子真由美

武西良和

牧田久未

横田英子

松村信人

香山雅代

香山雅代

中尾彰秀

近藤摩耶

《団体の会報・図書》

O C O S 217号 大阪文化団体連合会

詩界通信84号 日本詩人クラブ

埼玉県詩人会会報87号

中四国詩人会ニューズレター44号

北海道詩集NO65 北海道詩人協会

福島県現代詩人会 会報119号

しずおかの詩135号 静岡県詩人会

千葉県詩集第51集 千葉県詩人クラブ

イベント2018

講演・演奏・朗読の午後 報告

榊次郎

九月十五日、ドーンセンターで曇空の中、六〇名の参加で行われました。

第一部の講演、矢崎節夫氏の「みんなちがってみんないい」はだれもが理解できる平易な言葉の中に、金子みすゞのやさしさと深い意味が込められた思いを、矢崎氏は情熱的に語ってくれました。アンケートからは「言葉はまず自分に聞かれていることに気付きました」「今日まで金子みすゞさんの詩を深く読んだことがなかった事に気付かされました。嬉しい時間でした。楽しみが増えました」「金子みすゞの色んな作品を改めて鑑賞できた。みすゞの生きてきた道についても、もう少し触れてほしかった」「益々金子みすゞの詩が味わい深くなった」「講演の全てがよかった。矢崎さまの優しさ、愛に心を打たれました。今までも金子みすゞの詩は読んできましたが、自分の読みの浅さに気付かされました。もう一度ゆっくり読み直したいと思います」「矢崎さんは本当にみすゞの詩を愛しているのを感じました」「矢崎さんに掘り出されて読まれ続け、朗読されているすごさがある」等々、参加者の皆さんに感動を与えた講演でした。朗読文化の会「あい」のみすゞの詩でよかったと思う作品は「星とたんぼぼ」「こだまでしょうか」「大漁」「私と小鳥と鈴と」「このみち」等が多かった。

第二部の演奏について印象に残った曲については、リベルタンゴ、黒い瞳、アディオス・ノニーノ、タイスの瞑想曲などが良かったと言う感想が書かれています。また「普段、演歌ばかり聞いている私にとって、とても新鮮でした。しかも生演奏で感激致しました。演奏も曲も素晴らしいものでした。ちなみに唯一知っている曲は『黒い瞳』でした」とも。

第三部の会員による五行詩で評価を受けた作品は、野口幸雄さん、大倉元さん、青木春菜さんらでした。

イベントの総括ですが、相対的に内容は大変良かったのではないかと考えています。ただ当初ハガキによる会員や同伴者の参加表明は六五名でしたが、その内、不参加は十七名となりました。四、五名は減るだろうと予測はしていたものの、十七名とは。会計の出費も増えますので、今後どのようにして参加費を事前に徴収していくか、その方法を検討していかねがならない課題が残りました。なお、六〇名の中で、会員でない一般の方々は十一名でした。

